吹田市総合計画審議会・第１部会（地域別計画・第２回）

開催日時　平成１７年１０月１７日（月）午後２時００分～午後４時００分
開催場所　吹田市役所　低層棟３階　入札室
議事内容　１ 吹田市第３次総合計画基本計画（地域別計画）［案］の検討
　　（１）片山・岸部地域の検討
　　（２）豊津・南吹田地域の検討
　　２ その他
出 席 者（委　員）浜岡政好　衛藤照夫　神保義博　豊田 稔　鮫島 匡　前田武男
　　河野武夫　西岡昌佐子（欠席６名）
　　（事務局）清野助役　山中企画部長　岸企画部政策推進室長　池田総括参事
　　宝田参事　稲田主査　岡松係員
　　（傍聴人）３名

議事要旨

１ 吹田市第３次総合計画基本計画（地域別計画）［案］の検討

（部会長）
片山・岸部地域を最初に審議していきたい。誰でも結構であるので何かあるか。

（Ａ委員）
広大なＪＲ西日本の社宅用地の件についてであるが、やはりきちんとした基本計画を詰めておきたいと思う。先日指摘した中でそれ以降答弁できるところがあれば答弁してもらい、今後の検討事項ならそれをどう評価するのか少し詰めておきたいと思う。

（事務局）
今日は具体的な修正案を提示していない。前回頂いた意見と今日頂く意見とを踏まえ、どの部分について修正をかけるかを提示したいと思う。このような記述にしてはどうかという提案等を含めた議論をして頂けると、それを参考に次回修正案を提案したいと思う。指摘のあったＪＲ西日本の社宅においては、山田･千里丘地域のところで開発のことについて触れているので、そのような触れ方は検討できるのではないかと考えている。

（Ａ委員）
次回で結構であるので、片山・岸部地域におけるＪＲ社宅の資料として、現在全く空き家になっている社宅の世帯数はどれくらいなのか、住んでいる方が何世帯で、その比率はどのような状態になっているのかを示して頂きたい。現在のＪＲ関係者、昔の清算事業団の関係筋の方々の意見はどのようになっているのか。次回までに意見聴取ができればお願いしたい。

（事務局）
　今頂いた点について、例えば何世帯ぐらいが今住んでいるのか等の詳細なことまでは確認を取っていないので、次回に資料として示したいと思う。

（Ｂ委員）
　市があの土地を市債等で、一度買うという形にはならないのか。その後整備をし、いろいろな公共機関を置き、残りを分譲するような形にはできないのか。

（事務局）
　一度ＪＲ西日本の社宅のところを市が手に入れ、後で計画を立てるような方法はできないかということだと思う。現実として、ＪＲ西日本さんの土地であり、広大な土地である。前回の審議会でも返答したが、市としても勝手に切り売りをしないで下さいという申入れは口頭ではあるが伝えている。ある程度の理解はして頂いている。他人の土地であるが、このようなまちにしてほしい、このような公共施設も含めて開発する時にはしてほしい、ということは我々としては用意しなければいけないと思う。まだ取りかかってはいないが考えていこうという状態である。あの土地も多分ここ１、２年の間は、まだ特別に動くようなことはないというニュアンスの返事は頂いている。仮にそれが早まるということであれば、市の方に連絡を頂けるということになっている。今の時点ではここ１、２年の範囲では動かないと聞いている。それも含めて次回に報告をさせて頂きたい。

（部会長）
　市が取得するという考えは、選択肢には全く入っていないのか。

（事務局）
　約半分ぐらいが鉄道学園の敷地があり、基本的には使っているので、ＪＲ西日本が今後も使用していきたいということである。可能性があるとしたら社宅のところであるが、それを市で買い取るとなると、今の市の財政状況等を考えると、いくら地価が下がったとはいえ、相当高額な金額の敷地になると思う。今のところ市が手に入れるという計画はない。

（Ｃ委員）
　始めは行政指導型の地区計画をもくろむことが一番いいのではないかと思ったが、逆にこれはＪＲ西日本一社相手の話であるので特殊なケースではないかと思う。特殊なケースであれば、逆に通常の仕方では売ると決まった場合に手遅れになりかねない。できる限り広く市民の意見を聞く必要もあるかとは思うが、対案をつくることを極力お願いしたい。

（部会長）
　他のことについて何かあるか。

（Ｄ委員）
　（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「第３章」の「Ⅱ」の「第

１節」の③の「基本方向」には「地域の人と大学や学生との交流を深め、岸辺駅と正雀駅が近接する交通至便な立地特性を生かした、にぎわいと活気のあるまちづくりを進めます。大学を地域資源として生かし、地域文化を育みます。」とあるが、④の「計画」には「岸辺駅周辺の整備については、地域の特性を生かした、魅力あるまちづくりに向けて、市民、事業者の参画の下で、協働により取り組みます。」と書いている。関大のような形では、商店街は無理かもしれないが、岸辺周辺ではどのような計画等、将来的なものがあるのか教えて欲しい。

（事務局）
　③の「計画」で大学を生かした商店街の活性化のことを若干書いている。もう一つ、「ＪＲ岸辺駅周辺整備事業」として、現在岸辺のまちづくり懇談会が実際に動いている。具体的な中身は、その懇談会での検討をみながら、総合計画としては大きなくくりにしたということである。

（部会長）
　ここはわざわざ大学名、固有名詞が入り、その周辺についてであるが、大学と地域との連携の実態や仕組みはできているのか。地域と大学とが協定を結び、何かをするというようなことはあるのか。

（事務局）
　市と教育委員会の両者と大学で、いろいろなことを一緒にしていこうということで、既に協定は結ばれている。具体的にはフォーラムの開催など、そのようなことを少しずつであるが進めている。

（Ｄ委員）
　今回のまちづくり懇談会において、大阪学院大学が独自に参画していることはないのか。

（事務局）
　学生がまちづくり懇談会に参加していることはある。

（Ｄ委員）
　学生が関与しているものは、どのような内容か。

（事務局）
　ワークショップのメンバーに入っているということである。

（Ｄ委員）
　それはどこかの先生のところの学生ではなく、自由に学生が参加しているということか。

（Ｃ委員）
　通常学生は一人では来ない。教室で研究課題を与えられて単位にならなければ動かない学生が一般的である。

（事務局）
　詳しいことはわからないが、経済学部の研究室の学生が研究の一環として懇談会に参加しているということである。

（部会長）
　大学の中にリエゾン・オフィスのようなものがあり、地域と連携しながら、ここが窓口となってつながりをつくっているということではないのか。たまたまそのような人がいて、経済学部の先生がいて、地域に熱心でたまたまそのようなことになっているのか。大学が講義の一環として地域と連携しているのか。

（事務局）
　市と協定を結ぶためには、大学にその窓口をつくって頂き、いろいろな関わりをどのように持っていくのか、という協議の窓口をつくっているということはある。

（部会長）
　是非活かして頂きたい。他にあるか。

（Ｅ委員）
　些細なことかもしれないが、メロード吹田駅前再開発として、あの付近の整備はかなりされている。当初１階あるいは２階は、いろいろな商店が入り明るい雰囲気だったが、どんどん閉店になり、現在は１階正面がゲームセンターのようになっている。入ったことはないが、ドアが開いているところから覗いてみると、昼でも薄暗い状態であり、あまり青少年にとって好ましい環境になっているとは言えないのではないかという気がしている。どのような店を出店するかは、それぞれの自由であるので一概に言えないが、せっかく駅前再開発として随分整備も進んでいるわけである。一方でそのような実態があることを認識し、吹田の将来の子どもたちのためにも、ある程度、そのようなものに対しての抑制も考えていかなければならないのではないかという気がしている。

（Ｆ委員）
　前から居た人たちが、建て替えた後もそこに入るという話だったと思う。それをやめろというわけにはいかないのではないか。

（Ｃ委員）
　根本的には店がどんどん閉店していき、流行らない。ポテンシャルとして弱すぎることがポイントだと思う。もっと商店街がにぎわっていると、ゲームセンターぐらい目をつぶることはできるのではないかと思うが、今は目をむいてしまっている。

（Ａ委員）
　吹田駅の北口ができた時に、人の流れが２つに分かれてしまった。始めは山手、佐井寺方面から一直線に下りてきて、帰る時も一直線に帰るという道路計画だった。それが北口再開発後は、

山手の方向に帰る道筋と片山に帰る道筋の２つにわかれてしまった。その結果、佐井寺方向に帰る人が急増し、片山方面に帰る人が極端に減った。片山に帰る方の改札のところにメロード吹田があり、１階のど真ん中が空間になった。鞄屋がメロード吹田の１階の真ん中にあったが、真ん中が潰れたのでまわりが暗くなり、人が余計に入らなくなった。すると、２階も連鎖反応で入らなくなった。バス停が佐井寺側にあり、人の流れがそちらに行っており、あの流れがもう少しこちらに来ないかと思う。

（Ｇ委員）

つくる時は大きな構想のもとに行った。今の話のように、一軒、二軒と潰れ、そしてあのような形でゲームセンターになった。これは大きな失敗である。開発ビルの運営の問題は、家賃をあまり下げないので出て行く。出て行った後はあのような形で、同じパチンコ店の方がゲームセンターをつくり広がった。上の店舗も普通の人が入りにくいので、流行らない。きちんとした方針がないまま何でも有りとなった。今の店が悪いとは言わないが、住んでいる人はこんなはずではなかったと、引っ越してきた人もそこに住んでいるということが言いにくいということを言っていた。今となっては致し方ないが、轍を踏まないように片山・岸部地域の開発については、知恵を用いて行わなければならないのではないか。

（Ａ委員）

ＪＲ社宅の職員がほとんど遠のいた。その世帯数の減は相当響いている。飲食店はほとんどＪＲ社宅の家族用につくったので、いなくなったから軒並みに飲食店関係は潰れた。昔は国鉄のまち、アサヒビールのまちと言われていた一番のメインの客筋がいなくなった。現在の位置づけと今後の位置づけについては、開発ビルとの間においてどのような調整をされているのか。

（Ｇ委員）

入店者については、開発ビルが権限を持っているだろうが、市に連絡するなどの義務的なものはないのか。

（事務局）

ゲームセンターが入る前は、市長も随分そのことについては議論をして、開発ビルを呼んでいろいろな協議はさせて頂いた。実際管理する方もいろいろ入店してくれるテナントを探したが、やはり誰もいなかったので、やむを得なくという状況である。

（Ｇ委員）

期限をつけてか、それとも期限はなく、今のゲームセンターを広げたのか。

（事務局）

申し訳ないが、期限があるかどうかはわからない。

（Ｇ委員）

あまりこの問題に時間をさいてはいけないが、期限があればまた方法もあるかと思った。

（Ａ委員）
　北口の階段を上ってきた客を佐井寺方向へ行かせずに片山方向に行かせる道を何とかつくって頂ければと思うのである。北口は階段の方向しかない。階段の方向を変えることはできないか。何か知恵を絞ってほしい。

（Ｇ委員）
　片山商店街の活性化には一番いいことである。

（Ａ委員）
　それで片山商店街が生まれ変わると思う。

（部会長）
　商店街の中でもう一度どうしようという動きはないのか。

（Ａ委員）
　振興協会はある。メロート吹田だけのグループがあるが、自分たちのことで必死である。

（部会長）
　自分たちだけで元気を出そうとすると、少しは活気が出るのだが。

（Ｇ委員）
　しかし、道は今更潰すわけにはいかない。

（Ｃ委員）
　私は吹田市民ではなく他のところから来ているのだが、吹田の中心はどこかと思い浮かべると、やはりＪＲ吹田駅近辺かと思う。もちろん旭通りの方がメインとはすぐにわかるのだが、一方こちらに来るとアサヒビールのほか何もない。だから高層ビルがなぜ建っているのかと本当に不思議だった。高らかにうたい上げたものであることをインターネットでみたが、今の時代では全く考えられないことが書いていた。大きなシンボリックなものをつくり、そこに人を向けて景観的に中心にする、バラバラになっている吹田のまちをこれで集約するというイメージのことを、私の勘違いかもしれないが書いていた。そのようなことでは到底成り立たない、もたないのが現在である。今も結構閉塞的な状況かもしれないが、この状況の中でターミナルとしての形が当然考えられていると思うが、その辺を再考する必要があるのではないかと思う。そのような意味では大きな種地として、片山のＪＲ社宅があるわけである。もう一度そこを検討するような会議の場は今つくられているのか。また今後つくる予定はあるのか。ターミナルの一つだと思う。もちろん駅の南側や阪急もある。それぞれがバラバラで、私はバラバラでいいのかとは半分は思っているが、もう少し広域的に使うための何か方策を考えなければならないとは思う。

（Ａ委員）
　誤解のないように説明するが、実はＪＲ北口の再開発を検討した一人としては、自責の念にか

られている。しかしその時の人の流れとしては、まだＪＲ社宅を含めた 5,000 世帯の相当な購買力はあった。佐井寺方面の人たちの流れもあった。吹田市 50 周年記念行事だから 15、6 年前か。その時の人口動態の予想を考えられずに、ただガラ空き状態だったので開発をしようという一心だった。ましてや 38 階建てのメロード吹田に住んでいる人の購買力も期待していたが、そこに引っ越してきた人の購買力は主に梅田方面だった。しかし今反省ばかりしてもしょうがないので、今の状況でＣ委員の意見のように、何かプロジェクトチームをつくって頂きたいと思う。

（Ｇ委員）

38 階建てのメロード吹田を、一つの片山の活性化、再開発の起爆剤にしようと思い始めたのである。いつまでも駅裏的な存在ではなく、活性化することがねらいだった。それが結果的には今のような形である。それではどのようにするのかと言えば、今意見が出たような計画を、一回住民も地域の人も考えなければならない問題だと思う。

（部会長）

その辺はこの表現のところで何か盛り込むことにする。他の地域については何かあるか。一応３つの地域を扱っているのだが、片山地域と大阪学院大学の辺りについては触れた。（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「第３章」の「Ⅱ」の「第１節」の④の「交通の不便な地域の移動手段」とは、具体的には何かあるのか。

（事務局）

今年度であるが、千里丘が交通不便地域にあたっており、そこでコミュニティバスの試験運行の準備が進められている。順次試験運行を交通不便地域で行うことになっており、その地域に片山地域も入っているということである。片山地域は、今年度以降になるが一応予定されている。

（Ｃ委員）

社会実験的に行うということか。

（事務局）

そうである。

（部会長）

運行主体はどこが行うのか。市営バスのような直営か。

（事務局）

運行は委託になると思うが、市が直営で行う。

（部会長）

その辺は商店街のにぎわいの方策と結びついたりはしないのか。

（Ｃ委員）
　具体的にはどのようなところにバスを走らせるのか。

（事務局）
　スケジュールしか頂いていないので、どのようになっているかわからないが、千里丘地区が試験運行として 10 月以降に走らせる予定である。後は千里山地区が 19 年度後半、今の豊津・片山地区が 20 年度の後半に試験運行する、というスケジュールだけ一応担当から頂いている。次回に資料として、もう少しわかりやすいものを提出する。

（部会長）
　片山・岸部地域について他に何かないか。ないようであるので、もう一つの豊津･南吹田地域について何かあるか。追加資料が出ているので、それを説明して頂く。

（事務局）
　（配付資料　資料－35、37 の説明）

（部会長）
　江坂の関連資料とそれぞれのブロック毎に地域包括支援センターを地域保健福祉センターに設置という追加修正の説明だった。前回は江坂についていろいろな意見が出たので、江坂地域の産業データを出して頂いたが、2001 年の数字は現在も続いていると理解してよろしいか。それから４年くらい経過しているが、大体その流れで江坂は順調にこれ以降も伸びていると理解してよろしいか。

（Ｆ委員）
　起業の方が廃業を上回っていると聞いている。

（部会長）
　そうか。起業とは、業種的に言うとこの傾向と大体同じか。

（Ｆ委員）
　同じだと思う。急に変わったということは聞いていない。情報通信関連は増えているかも知れない。

（Ｃ委員）
　江坂については前回熱く語って頂き、結局その話になると思うが、江坂の本当の表通りは商業地しかない。しかし、一本道路を入ったり、少し南側や北川に入ったりするとマンションを多くみる。例えば、江坂で賃貸マンションを経営すると必ず儲かると言うと言い過ぎであるが、十分入居は見込めるわけである。空き家が出ないとよく言われる。そのようなことを含めると、やはりここは人が住むまちでもあると思う。都心居住のあり方を検討して、調和の取れた職住のまちにするという意味のことが、江坂の中に入って欲しい。結局、人の住まない商業だけのまちは、

今や失敗であると全世界的に皆が反省しているところでもある。人が住まないまちは滅びることにもなる。前回にも話しが出たが、ピンサロが来ていたり、江坂に非常に物騒な感じのところも増えてきていたりする。逆に言えば、人が住むことをきちんと保っていくと、吹田の問題点も抑えられていくのではないかと考えている。都市居住という観点を是非とも記述して頂きたいと思う。

（部会長）
今のことと関連するが、神戸の六甲アイランドなどでは、外国籍市民がかなりたくさん住んでおり、そのようなことを意識したまちづくりをしているそうである。この周辺は、外国籍市民が住むという状況は特徴的に出ているということはないのか。

（Ｆ委員）
豊津･南吹田地域という名称であるが、これは（仮称）がついていないが、このままの名称でいくのか。広い意味での江坂が、豊津も南吹田も包括するような状況にあるわけである。江坂企業協議会という 300 社くらいの企業の団体が、特徴的なものとして江坂にある。以前は、江坂駅の南側の改札を開けるということを目的とした団体であった。最初は改札をあける団体だったが、もっといいことをしようという意味で、西南吹田企業協議会として江坂という名前を出さずに、西南吹田エリアの協議会としてやりだした。それが近年、江坂企業協議会に改名をし、マーク等をつくり活動されている。またこの地域を西南吹田地域と呼ぶことも逆行している気もするが、豊津･南吹田が出ていて江坂はどこに入っているのかという思いが拭い去れない。変則的に江坂・豊津･南吹田というように 3 つ並べるようなことはできないのか。他の地域でも五月が丘が抜けているのではないか等のバランス的なことを考えると、６ブロックでもそのような解消をトータルで考えて頂いてもいいのではないかと思う。

（部会長）
江坂という地域名にすることについては、合意があるのか。豊津･南吹田ではなく、江坂地区とすることに対して反発が出るのではないか。

（Ｆ委員）
反発は出るかもしれない。横暴と言われるかも知れないが、広い意味での江坂である。つまり、ここも江坂なのかということも多く、江坂の駅からかなり離れた場所でもマンション名に江坂と付けているところも現実的にある。

（部会長）
ブランド化してきている。

（Ｆ委員）
ある時期、町名を江坂何丁目と全部変えてみてはどうかという意見が出たくらいである。

（部会長）

地域名について、いろいろ市民意見として出ているのか。

（事務局）

江坂の企業協議会の方からは、豊津･南吹田地域では江坂が全然みえないのではないかという意見が出ている。

（Ｆ委員）

豊津･南吹田地域で、かなりの部分江坂について占めている現状がある。だから看板と中身が違うのではないかという感じがある。

（事務局）

昔の豊津村ということから、今の江坂全体も含め豊津という言い方になればいいのではないか。

（Ｆ委員）

それもあるが、江坂駅の西側が豊津町である。なぜ豊津町と付けたのか、阪急の豊津駅とややこしいのではないかという意見もあった。しかし、事務局が言ったように旧豊津村の豊津を残さなければならないという理由から、我々の町名は豊津町になっている。その辺のことが逆にややこしいのだが、ただこのような歴史的な流れがあるので、いい加減に付けている町名ではないと思う。

（Ｄ委員）

合わせて（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「第３章」の「Ⅲ」の「第１節」の①に「 …「江坂文化」を発信します。」となっている。そもそも豊津の江坂は、古い資料をみると神社の辺からずっと並んでおり、あの地域から発生している状況であると感じる。一番縁に高川、南に神崎川、そして糸田川とある。この部分をもっと夢のあるものにできないのかと思う。もう一つ神崎川とＪＲに遮断されている南吹田１丁目、２丁目の部分のまちづくりについてはどのような展望があるのか。（資料－30）の「基本計画（地域別計画）［案］に対する市民意見一覧」に「暗い」と書かれている。「暗い」という意味がはっきりとわからないが、繁華街は明るいかもしれないが、裏に行くと暗いというイメージなのかもしれない。あるいは全体的に糸田川周辺、南吹田に対して暗いイメージを持っているのかもしれないが、そのような意見から夢のある明るいイメージを地域に出すような方向性の将来図はないのか。（資料－37）の「No.４「吹田市新商工振興ビジョン素案」より抜粋」に、「地域南部の神崎川沿いには工場や倉庫が立地し、住工混在がみられるとともに、神崎川沿いには大規模な工場が数多くみられます。」で終わってしまっている。何も後の振興策もないままに、ただ現状を提案しているだけである。このまちの振興ビジョンにするような環境や倉庫群に関するようなものは何も載っていない。そこがもったいないのではないかと思う。特に神崎川沿いには、ずっと工場地帯があるので将来的な展望、また今言われているように新しい江坂駅周辺でのまち、これをもっと何とかできないかという思いはある。

（事務局）

今の意見は、いわゆる南吹田１丁目から周辺は、今回（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「第３章」の「Ⅲ」の「第１節」の③の「（仮称）西吹田駅前の整備については、…」に、西吹田駅前の開発に合わせてまちづくりを行っていこうという記述はさせて頂いている。

（Ｄ委員）

緑のネットワークルートということで、高川から万博、糸田川から万博へと結ばれているが、もう一つ住んで良かったというところが出てこない。だからその部分で本当の将来的に、江坂という今発展途上にあるような地域に期待する何かが生まれてこないものかと思う。糸田川や神崎川なども風の回廊など、そのようなイメージは持っているが、隣に建っている工場群をみると無理かなと思う。

（Ａ委員）

地域名の議論は簡単なようで政治的な要因を含んでいる。片山・岸部地域は、山手地域が 3 分の１を占めている。15 年程前は山手町１丁目から４丁目、出口町、西の庄町は全て片山連合自治会であったので、それで済んでいた。それが 15 年程前に山手連合自治会ができて、なぜ山手町が地域名になっていないのかということでいつも議論している。仮に江坂という名称を入れ、江坂・豊津・南吹田地域となれば、山手・片山･岸部地域と入れなければ政治的な問題は決着しないと思う。

（Ｆ委員）

入れていいと思う。

（Ａ委員）

福祉委員会は片山のときに行くという。運動会は別々に行っている。このような状況が続いている。いい機会であるので、こちらも山手・片山・岸部地域と変えて頂ければ、政治的決着はつくと思う。

（Ｃ委員）

結構である。単純に考えて、今の説明で山手を入れなければいけないという気持ちになった。豊津･南吹田でも、江坂はこの辺り中心、豊津はこの辺、南吹田はこの辺と地図上でも当然かと思う。入れると、とても大変なことが起こるのか。逆に聞きたいと思う。入れてもいいと思う。

（Ｆ委員）

政治がどうというよりも、わかりやすさを優先するべきではないかと思う。

（部会長）

他の地域も全部入れるとなるのではないか。

（Ａ委員）
　その通りである。そこでＪＲ以南もきちんと解決しなければいけない。

（Ｆ委員）
　３つまでは許容範囲だとは思うが、４つになると厳しいと思う。

（Ａ委員）
　３つまでは許される。２つに固執する理由は一つもない。

（Ｆ委員）
　２つにすると無理がある。

（Ｃ委員）
　江坂は豊津･南吹田と言いながら、真っ先に江坂が出てくるわけである。見た人はすぐにわからない。

（部会長）
　第１部会だけで決めることはできないが、第２部会でも議論しなければならない。この名称問題は検討ということでお願いする。

（Ａ委員）
　部会長、合同会議のときに３つくらい名前が出てもいいのではないかという強い意見があったことを報告して下さい。

（部会長）
　記録の方よろしくお願いする。

（Ａ委員）
　先ほど配布された資料で（資料－37）の「No. ４「吹田市新商工振興ビジョン素案」より抜粋」の説明を受けた。「江坂駅周辺地区は大阪市中心部のみならず、新幹線や空港の利用により東京都心部とのアクセスも容易で、その優れた交通アクセスが他都市から支店や営業所を吸引することを可能にしていると考えられます。」という文章は、17、8 年前に聞いた文章であるが、今でもこれは生きているのか。

（事務局）
　2003 年 3 月に財団法人関西産業活性化センターというところが調査した中で、本社の機能がどれくらい江坂にあるのかという調査も、今日の資料には付けていないが別途行っている。大阪市全体の中で江坂にどれくらい、新大阪にどれくらいあるのかという資料を作成しているものがある。その中に江坂に本社機能がまだあるという数字が出ていたので、このような表現になった。

（Ａ委員）

現在もこの文章通りに、本店、支店が存在しているのか。本店、支店は相当流失した。それはこの「新幹線や空港の利用により東京都心部との…」というメリットがなくなったからか、土地高騰による流失なのか、その辺をどのように判断すればいいのか。

（事務局）

例えば新大阪の辺りでも、以前よりも地価が下落していることもあり、よりそちらに移っているということもある。ただ 2003 年の調査ではまだそのような状況がみれる、という判断でそのような文章が残っている。流出していることは確かであるが、事業所等の統計を取ると、まだ機能としては江坂にあるという判断をしている。

（Ｆ委員）

本店は逃げていっていることはあるが…。かろうじて、支店・営業所は生きている。文章をみていると、まだこの通りかと思う。

（Ａ委員）

本店が流失した経緯は何か。

（Ｆ委員）

理由は、やはり市のサポートがないからではないか。積極的な融資をされていない。

（部会長）

それだけではなく、90 年代後半は東京一極集中であるので、大阪は基盤後退したというのがあるのではないか。もっと大きな企業は東京へ移った。

（Ｄ委員）

ＩＴ関係では、駅周辺はまだ高いということで、江坂を敬遠して周りのところに行っている。例えば今はパソコンがあれば商売ができるので、住も商も一緒に入っているビルが多くなってきている。状況ははっきりとはわからないが、調べると少し形態が変わっているかも知れない。

（部会長）

市民意見に子どもに対する意見がたくさん出ている。（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「第３章」の「Ⅲ」の「第１節」の③に「 子どもが安心して遊べる場の整備に努めます。」という形で追加されている。実際に江坂周辺のイメージとして、（資料－30）の「基本計画（地域別計画）［案］に対する市民意見一覧」の 235 番に「子どもにとって“秘密”の場所がある環境」や 236 番の「子どもが日中遊べる居場所づくり」等、いろいろ要望は出ている。

（事務局）

江坂の辺り、垂水町の辺りの子どもが増えていることから書かせて頂いた。

（部会長）
　遊ぶ場所ということか。

（事務局）
　そうである。遊ぶ場所である。ポケットパークのような小さなところで子どもが遊べるということである。

（Ｄ委員）
　恐らくそれは、垂水町には児童センターがあるが江坂にはない。南吹田には児童センターはある。そのような要望があっての場所がないとあるのではないかという気がする。江坂・豊津にはない。新御堂から西側はない。そのような部分を言っているのではないか。

（部会長）
　先ほど追加で修正された地域保健福祉センターの整備のことであるが、空間的にはどこの辺りとかイメージはあるのか。又は既存施設では、どこの辺が使えそうか。

（事務局）
　まだそこまで想定できていない。

（部会長）
　とりあえずブロック毎に想定したということか。先ほど少しだけ話が出ていたが、市民の要望や意見に川の話が随分出ていた。（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「第３章」の「Ⅲ」の「第１節」の③に「神崎川などの緑と水辺を生かし、市民や事業者との協働により、ふれあいの場として活用します。」とある。川について近付けるような具体的なことが考えられているのか。

（事務局）
　現在、神崎川については「アドプト・リバー」として、先ほど出た企業協議会等が地域の方と一緒にふれあいの場として整備をしたり、管理したりということがある。そこともう少し糸田川の方とを結び、高川とどのように繋いでいくのかが、これからの計画の中で必要ではないかと考えている。歩けるルートとして、繋ぎたいと考えているぐらいである。②で「歴史・文化資源に親しみながら…河川を結びます。」と書いているが、これと③の「神崎川などの緑と水辺を生かし、…」の辺りを繋げることができればいいのではないかと思う。

（部会長）
　（資料－30）の「基本計画（地域別計画）［案］に対する市民意見一覧」の 260 番の「淡水魚が安心して食べうる吹田の川」というところまでは近付けないか。

（Ｄ委員）
　夢であるが、神崎川の水位が上がると糸田川まで増水するが、水が干上がった時には湾のよう

なものがないので鯉が死んでしまう。天井川であるので雨が降ればゴミも堆積する。理想としては、糸田川の憩いの道があるだろうが、上の川と糸田川の合流するところしか溜まりがない。豊中の方では、逆に川に降りるスロープをつくり、そこまで入れるが、糸田川は急で入れない。内環から糸田川へお年寄りが安心して通れるようにしてほしいというのが夢である。

（Ｂ委員）

日生のグランドはどうなっているのか。

（事務局）

日生のグランドは現時点では唯一の厚生施設になっている。他の日生の関係の厚生施設を全部潰し、そこだけが残った。業績も上がり、社員にも余裕ができ、スポーツなどをするところはそこしかない。社員の方が非常に利用されているので、今売れる状況ではないと聞いている。

（Ｅ委員）

（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「第３章」の「Ⅲ」の「第１節」の③に「神崎川などの緑と水辺を生かし、市民や事業者との協働により、ふれあいの場として活用します。」と計画として書かれている。現に安威川に川の近くまで降りられるように、土手から階段を何箇所か設置して頂いているが、非常に傾斜が急である。私もその一人であるが、足腰の弱った高齢者や子どもたちが足を踏み外して転げ落ちると大けがするのではないかと少し心配している。できているものにとやかく言っても仕方ないが、今後そのような計画が進められていく上では、やはり階段の勾配という点も考えて頂きたいということが一つである。済生会吹田病院の近くに、以前は汚い水路だったが、それを埋め立てて、きれいに植物も植え人工の川であるが流れている。もう少しすると気温が下がってくるので今は入らないが、子どもは水が好きであるので、小さい子どもたちもそこに浸かっている。休みの日などは多くの子どもが遊んでいる風景をよくみかける。是非そのような面をＪＲ以南地域だけではなく他の地域でも、豊津･南吹田地域にも「神崎川の緑と水を生かして」という項目があがっているので、やはりこの計画を是非実現するように、今後考えて頂ければありがたいと思っている。

もう一点、先ほど頂いた（資料－37）であるが、たまたまＪＲ以南地域の「産業別事業所数」が載っている。ＪＲ以南は平成 3 年から全て減っている。ただ運輸・通信業だけが平成 3 年には 48 所、平成 8 年には 58 所、平成 13 年には 60 所に少し増えているが、これも平成 8 年の吹田市全体に占める割合からは低下している。また前回出てきたように、ＪＲ以南地域は今後どんどん人口が減る。人間は減り、事業者も減るとなると、衰退の一路をたどっているような気がする。従ってＪＲ以南に住んでいる一個人として、またこの審議会の席に参加している審議会の委員としても、（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「第３章」の「Ⅰ」の「第１節」の①の「基本方向」に「…商店街の活性化を進め、ふれあいとにぎわいのあるまちづくりを進めます。」とあり、更に②の「基本方向」には「…歴史・文化・自然のネットワークの形成に努め、魅力あるまちづくりを進めます。」とあり、この基本方向を実現に向けてしっかり見据えて頂きたい。もちろん我々市民も協力しなければならないが、市全体で尽力を頂ければ大変ありがたい。

（部会長）
　他にないようであれば、その他の案件に移りたいと思うが、言い残したことはないか。

（Ｆ委員）
　ＪＲ以南の名称の件であるが、「吹田発祥地域」とか歴史的な名称を付けて頂ければどうかと思う。もしくは、先ほど議論した時のように、３つくらいの地域名をあげるという仕方もあると思うが、それは私にはどこを選んでいいのかわからない。

（部会長）
　地域名については今回いろいろな意見も出たので、全体会で議論する。どのようにすれば一番愛着も持てるか、この計画に対しても積極的に関われるような名称になればいい。

（Ｃ委員）
　今の意見のように、ＪＲ以南はどちらかと言えば、歴史を感じられている方がたくさんいることはよくわかるが、吹田発祥の地、歴史というような名前のイメージが出るようなことを検討する機会をつくってほしいと思う。先ほどの豊津の方は江坂を入れた方がいいと思う。このようなことを検討することは、このような審議会で行うのか、どのような形がいいのかわからない。検討するのであれば次回までに一生懸命に考えてくる。

（事務局）
　悩んでいるところである。

（Ｃ委員）
　名前を付けるということは、その地域をどのようにするのかについての回答をほとんど出しているというところもあるので、とても重要かと思う。操車場跡地は片山・岸部地域になるのか。

（事務局）
　そうである。

（Ｃ委員）
　その中で記述があり、（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「第３章」の「Ⅱ」の「第１節」の④に「吹田操車場跡地の整備については、地域の新しい未来を切り開くまちづくりに向けて、市民、事業者の参画の下で協働により取り組みます。」と書いている。地域の未来を切り開くことは当然であるが、全市的に考えてこれを決めていくべきだと思うので、もう少しいい表現はないものかと思う。私の意見としては、ここは緑の広場にしてしまうことが一番いいのではないかと思っている。そのようなことを考えた時に、この表現だけになると、ここを切り開いて住宅をたくさん貼り付けていくイメージがみえ隠れすることが嫌だと思う。是非吹田全域としてここを価値のある場所にしたい。

（部会長）
　３つの各地域を取り上げ、個別に検討して頂いたのだが、もう一度「第２章　すべての地域に共通する主な取組」に、追加・強調した方がいいという意見があればお願いする。

（Ｆ委員）
　（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「６.安全で魅力的なまちづくり」に「誰もが安心して歩ける歩道の整備を進めます。」や「駅舎や駅周辺のバリアフリー化…」とあるが、誰もが安心して歩ける歩道には車椅子は含んでいないのか。

（事務局）
　含んでいると考えている。

（Ｆ委員）
　「歩ける」だけに含んでしまっているのか。歩ける人ばかりではないので、「車椅子も含め、誰もが安心して…」と言って頂ければ一番わかりやすい。当然幅員の問題もある。

（部会長）
　この辺を表現として工夫をお願いする。

（Ｂ委員）
　（資料－30）の「基本計画（地域別計画）［案］に対する市民意見一覧」の 266 番に「豊津駅→片山。歩道が狭い。自転車も車道はしる」と書いている。ずっとあのままの状態か。横が府道であるので簡単にはできないとは思うが。

（Ｄ委員）
　バリアフリー基本構想の中には、ＪＲ吹田、阪急吹田、阪急豊津の地域があり、おそらくその部分は協議の中で行うと思う。

（Ｆ委員）
　自転車も車道を走ることは当たり前である。この方は、自転車は歩道を走るものだと思い書いていると思う。

（部会長）
　自転車が歩道を走る場合、道路交通法の中には、歩道の幅などの規定がある。それ以上狭い場合は、自転車は車道を走ることになっているが、１ｍぐらいのところをすっと走っている。

（Ｅ委員）
　歩行者の安全が保たれた上で走ってもいいということであるので、本来的には、自分が後ろから走ってきて前に歩行者がいた場合は、「すみません」と言ってゆっくり通り過ぎなければいけないが、今や当然のようにスピードを出して横を走っていく。あれは具合が悪い。

（Ａ委員）

（資料－35）の「基本計画（地域別計画）〔案〕の修正〔提案〕」の「４.個性がひかる学びと文化創造のまちづくり」であるが、「文化創造」というメインタイトルに関わらず、（文化）の下に「地域に残されているさまざまな文化財の保存に向けて、啓発に取り組みます。」と記されている。（文化）という形で記しているわりには、もう一つパンチの効かない一行になっている気がする。来年の３月に施行されるであろう、（仮称）吹田市文化振興基本条例等々を勘案しながら、この行をもう少し加えて、色付けした方がいいと思う。

（部会長）

「すべての地域に共通する主な取組」ということであるので、特定の地域というよりも吹田全域で共通して行うものである。その時に文化財の保存だけではかなり狭すぎないかという意見である。その辺の表現も含めてもう少し幅というか、これから取り組んでいくという姿勢を盛り込める表現の方が望ましいという提案である。

（Ｃ委員）

「基本計画（部門別計画）〔案〕」の「第４章」の「第４節」には詳しく書いているので、ここをもう少し要約して入れればいいのではないかと思う。

（Ａ委員）

その通りである。

（部会長）

他に何かあるか。

（Ｅ委員）

先ほどの「誰もが安心して歩ける歩道の整備を進めます。」であるが、「歩ける」を「通行できる」にすれば車椅子も入るかと思うが、いかがか。

（部会長）

それで車椅子も込められている。Ｆ委員の意見は「通行」にすれば込められる。

（Ｃ委員）

「通ることができる」としてはどうか。

（Ｆ委員）

逆に「車椅子が安心して通れる歩道の整備」と書いて頂いた方が、皆行けることがわかるのではないか。車椅子がちゃんと通れると言われると安心であると約束されると思う。

（Ｃ委員）

ただし、すべて車椅子が通ることができるようにすることは現実的ではない。

（Ｆ委員）

「整備を進めます」とあるので、その方向でみてくれるということでいいのではないか。「全部整備をします」とはもちろん言わなくてもいい。

（Ｃ委員）

よく、車椅子を通そうと思えば実際には勾配が取れないからできない、多大なお金をかけなければならないと言っているのを聞く。人が介添えしなれば車椅子が通れないようでも、行ければいいという発想でどんどん整備する方が返っていいのではないか。その点でどんどん悪い歩道ができるのであれば問題であるが、両面を上手く考えていかなければならないと思う。

（Ｅ委員）

「車椅子が安心して…」としてはどうか。言葉は難しい。

（部会長）

その辺の文章についてはまた検討して頂くことにする。意見はほぼ出尽くしたような気がする。その後思いついた場合や気が付いたことは全体会議で意見頂きたいと思う。その他について何かあるか。それでは終了する。

以　　上